

## 総合科目（1年次生～5年次生）

(1) 学内・学外早期体験実習	(1年) . . . . . 12
(2) 学内・学外早期体験実習	(1年) . . . . . 15
(3) 歯学展望	(1年) . . . . . 17
(4) コミュニティー教育・実習	(3年) . . . . . 21
(5) 歯科東洋医学	(3年) . . . . . 24
(6) <b>Scientific and Practical English</b>	(3年) . . . . . 27
(7) 歯科医師のコンピテンシー I	(1年) . . . . . 29
(8) 歯科医師のコンピテンシー II	(2年) . . . . . 31
(9) 歯科医師のコンピテンシー III	(3年) . . . . . 33
(10) 歯科医師のコンピテンシー IV	(4年) . . . . . 35
(11) 歯科医師のコンピテンシー V	(5年) . . . . . 37
(12) 歯科学のための化学	(1年) . . . . . 39
(13) 歯科学のための生物科学	(1年) . . . . . 41

年度 2019 学期 1Q	曜日・校時 火・1～2	必修選択 必修	単位数 (3.5)
科目番号	25064401		
科目ナンバリング・コード	DNGD11011098		
授業科目名/(英語名)	学内・学外早期体験実習/(Early Exposure)		
対象年次 1年次	講義形態	講義・実習形式	教室 第2講義室
対象学生(クラス等)	科目分類		総合科目
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鮎瀬卓郎(教務委員長)/ ayuse@nagasaki-u.ac.jp/歯科麻酔教授室/819-7713/月～金曜日 午後5時～6時			
担当教員(オムニバス科目等)	齋藤俊行、吉田教明、藤原 卓、吉村篤利、澤瀬 隆、村田比呂司、梅田正博、朝比奈泉、鮎瀬卓郎、角 忠輝、久保至誠、角 美佐		
授業の概要  歯学部 of 臨床分野の様子を早期に見学し、今後の講義・実習への学習意欲を高める。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 歯学に興味をもち、今後の歯学部 of 講義・実習 of 学習意欲を高める。 個別行動目標 SBOs: ○医療職として必要な態度をもつことができる。 ○大学病院 of 歯科臨床(歯科診療部門) of 実情を説明できる。			
【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 A-4-1)、A-8-1)、A-9-1) A-1-1)-③、A-9-1)			
授業方法(学習指導法)  臨床歯学分野 of 見学を中心にローテートする。			
授業内容  1回目 オリエンテーション, 総合歯科臨床教育(口腔検診) 2回目 口腔保健学、歯周歯内治療学 3回目 頭頸部放射線学 4回目 歯科矯正学、小児歯科学 5回目 口腔腫瘍治療学、顎口腔再生外科学 6回目 口腔インプラント学、歯科補綴学、歯科補綴学(修復学) 7回目 歯科麻酔学 8回目 まとめ			
キーワード	歯科部門, 早期体験		
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	レポートにより評価する。 また、授業への貢献度も評価 of 対象とする。		
受講要件(履修条件)	医療関係者としての態度を重視するので、原則欠席、遅刻は認めない。		
備考(学生へのメッセージ)	第1回目は、説明と患者体験実習として6年生による口腔検診を受ける。		

<p>実務経験のある教員による授業科目</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齋藤 俊行／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する</li> <li>・吉田 教明／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する</li> <li>・藤原 卓／長崎大学病院小児歯科での歯科臨床経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する</li> <li>・吉村 篤利／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する</li> <li>・澤瀬 隆／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する</li> <li>・村田 比呂司／長崎大学病院における歯科補綴診療業務を継続中／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する</li> <li>・梅田 正博／長崎大学病院における診療業務／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する</li> <li>・朝比奈 泉／長崎大学病院における診療実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する</li> <li>・鮎瀬 卓郎／現役歯科医師が大学病院における実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する</li> <li>・角 忠輝／長崎大学病院における実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する</li> <li>・久保 至誠／長崎大学病院ならびに兼業先診療所における実務経験／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する</li> <li>・角 美佐／長崎大学病院における画像診断業務を継続中／診療経験を活かし、各分野における臨床の実情を説明する</li> <li>・吉田 雅司／現役歯科医師が歯科医院における実務経験／海外医療支援やスポーツ歯科について講義する。</li> </ul>
-------------------------	---

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	9	火	1～2	オリエンテーション, 総合歯科臨床教育(口腔検診)	各教員	第2講義室
2回	4	16	火	1～2	1限: 口腔保健学 2限: 歯周歯内治療学	各教員	第2講義室
3回	4	23	火	1～2	1限: 未定 2限: 頭頸部放射線学	各教員	第2講義室
4回	5	7	火	1～2	1限: 歯科矯正学 2限: 小児歯科学	各教員	第2講義室
5回	5	14	火	1～2	1限: 口腔腫瘍治療学 2限: 顎口腔再生外科学	各教員	第2講義室
6回	5	21	火	1～3	1～3限 口腔インプラント学、歯科補綴学、歯科補綴学(修復学) 合同	各教員	第2講義室
7回	5	28	火	1～2	1限: 未定 2限: 歯科麻酔学	各教員	第2講義室
8回	6	4	火	1～2	まとめ		第2講義室

年度 2019 学期 3・4Q	曜日・校時 火・1～6	必修選択 必修	単位数 (3.5)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064401 DNGD11011098 学内・学外早期体験実習/(Early Exposure)		
対象年次 1年次	講義形態	講義・実習形式	教室 第1講義室
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鮎瀬卓郎(教務委員長) / ayuse@nagasaki-u.ac.jp/ 歯科麻酔教授室/819-7713/月～金曜日 午後5時～6時/ 学生12～13名に1名の教員をチューターとして配属しているため、実習期間中は連絡を密にとること。			
担当教員(オムニバス科目等)	木村泰男 他 歯学部教員, 大学病院教職員 田中晃伸(非常勤講師)		
授業の概要 専門的知識の乏しい1年次に地域歯科医療の最前線である開業歯科医院および病院歯科等へ出向き、先入観のない視点から歯科医療を見つめ、今後の専門教育への動機付けとする。 また歯科と連携を図らなければならない多職種(看護師, 栄養士, 作業療法士など)の業務を体験, 理解する。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 歯科医療を理解し、専門教育に興味をもつ。 個別行動目標 SBOs: 【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 1 社会的に歯科医師に求められているものを議論できる。 A-1-3)、A-4-2) 2 各自の将来の歯科医師像を想像することができる。 A-1-3)、A-4-2) 3 患者中心の多職種連携を体感する。 A-1-2)、A-5-1)-①、②、③ 4 医療職として必要な態度をもつことができる。 A-4-1)			
授業方法(学習指導法) 受け入れ歯科医院へ学生が出向き、指定の時間を診療室での見学を行い、診療設備、歯科医師-患者-スタッフ間でのコミュニケーションの重要性を観察する。また、長崎市の歯科医療の実態や歯科以外のコメディカル・コデンタルの業務を見聞する。			
授業内容 1回目 オリエンテーション1 2回目 オリエンテーション2 3回目 オリエンテーション3 4回目 学外実習1 5回目 学外実習2 6回目 多職種による講義1 7回目 グループ討論と発表会 8回目 学外実習3 9回目 学外実習4 10回目 学外実習5 11回目 グループ討論と発表会 12回目 多職種による講義2 13回目 未定 14回目 本実習に関する感想を全員が発表する。 15回目 まとめ			
キーワード	臨床現場、多職種連携、歯科医師像		
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	事前・事後レポート、最後の発表会も内容及び最終報告レポートを加味して評価する。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。		
受講要件(履修条件)	医療関係者としての態度を重視するので、原則欠席、遅刻は認めない。 特に1回目のオリエンテーションを受けてない学生は学外実習には参加させない。		
備考(学生へのメッセージ)	学研災に必ず加入すること。 長崎県歯科医師会や大学病院看護部等の全面的な後援のもとに実施可能となっているので、配属先の歯科医院および病院に失礼のないように十分注意する。(挨拶、態度、時間厳守)		
実務経験のある教員による授業科目	・市内の歯科医院等/市中の歯科医院での一般歯科診療を見学、体験させることで地域歯科医療の現場を理解させる実習を行っている。 ・田中 晃伸/たなか歯科医院における歯科臨床/開業医としての歯科医師の魅力についての講義		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	1	火	1～6	オリエンテーション1	教務委員長、 木村	第1講義室
2回	10	8	火	1～6	オリエンテーション2	木村、 非常勤講師	第1講義室
3回	10	15	火	1～6	オリエンテーション3	木村、 非常勤講師、 各チューター	第1講義室
4回	10	29	火	1～6	学外実習1	木村	各実習先
5回	11	5	火	1～6	学外実習2	木村	各実習先
6回	11	12	火	1～6	未定(多職種による講義)	未定	第1講義室
7回	11	19	火	1～6	グループ討論と発表会	木村	第1講義室
8回	11	26	火	1～6	学外実習3	木村	各実習先
9回	12	3	火	1～6	学外実習4	木村	各実習先
10回	12	10	火	1～6	学外実習5	木村	各実習先
11回	12	17	火	1～6	グループ討論と発表会	木村	第1講義室
12回	12	24	火	1～6	未定(多職種による講義)	未定	第1講義室
13回	1	7	火	1～6	未定	未定	第1講義室
14回	1	14	火	1～6	本実習に関する感想を全員が発表する。	木村、 各チューター	第1講義室
15回	1	21	火	1～6	まとめ	教務委員長	第1講義室

年度 2019 学期 通年	曜日・校時 前期:月・1 後期:月・3(一部火)	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25064403		
科目ナンバリング・コード	DNGD11021098		
授業科目名/(英語名)	歯学展望/(Dental Outlook)		
対象年次 1年次	講義形態 講義形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鮎瀬卓郎(教務委員長) / ayuse@nagasaki-u.ac.jp/歯科麻酔教授室/819-7713/月～金曜日 午後5時～6時			
担当教員(オムニバス科目等)	真鍋義孝、大庭伸介、中村渉、根本孝幸、藤田修一、内藤真理子、筑波隆幸、バラネザハド、伊藤公成、山下裕美、見立 英史、齋藤俊行、吉田教明、藤原卓、吉村篤利、澤瀬隆、村田比呂司、石田優、朝比奈泉、角 美佐、鮎瀬卓郎、久保至誠、久松徳子、鮎瀬てるみ、小山善哉、河野哲也(学内非常勤講師)、若菜啓孝(学内非常勤講師)、永田康浩(学内非常勤講師)、夏目長門(学外非常勤講師)		
授業の概要  歯科医師になるため、これから6年間学ぶ歯学教育・研究の専門的内容を分かりやすく説明し、歯学生としての自覚を養う。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 6年間学ぶ歯学教育・研究の専門的内容を理解し、歯学生としての自覚を養う。 【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 個別行動目標 SBOs: 1 歯学教育・研究の基本的な概要を説明できる。 A-9-1) 2 基礎及び臨床科目の基本的な内容を説明できる。 A-9-1)			
授業方法(学習指導法)  歯学教育・研究・臨床に関する主要テーマについて、主に歯学部の教員によるオムニバス方式の講義を行う。			
授業内容  (前期) (後期) 1回目 総合科目「歯学展望」について 1回目 予防歯科と全身の健康 2回目 タバコ学事始め 2回目 矯正歯科の未来 3回目 学生ポートフォリオ① 3回目 う蝕治療の変遷と今後の展開 4回目 生体リズムの生理学 4回目 歯周疾患と治療 5回目 歯周病原細菌の生化学 5回目 人工物で作る歯 6回目 病気の形態 6回目 歯科補綴学と健康長寿 7回目 口腔細菌の意義 7回目 再生歯科医療 8回目 生体材料と歯科材料 8回目 骨の「きず」の治療 9回目 歯科薬理 9回目 海外医療援助 10回目 解剖学と人類学 10回目 頭頸部領域の画像診断 11回目 「がん」をどのように研究するか 11回目 歯科医療と全身管理 12回目 歯科法医学の世界 12回目 摂食嚥下リハビリテーション 13回目 小児の歯科診療 13回目 地域連携医療の中で歯科に求められること 14回目 骨格形成 14回目 障害者の歯科診療 15回目 歯学部生の研究発表・国際交流について 15回目 未定			
キーワード			
教科書・教材・参考書	なし		
成績評価の方法・基準等	前期・後期の定期試験期間中に求める講義内容に関するレポートで評価する。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。		
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の2/3以上の出席が求められる。		
備考(学生へのメッセージ)	歯学部に入學した、将来歯科医師になる歯学生としての自覚を養ってほしい。 卒業後、国民に有益・有用な歯科医師となるよう入学時から真摯な態度で学習してほしい。		

<p>実務経験のある教員による授業科目</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤田 修一（前期・第 6 回）/長崎大学熱帯医学研究所での病理解剖業務と長崎大学病院での口腔病理専門医としての実務経験/基礎医学である病理学と臨床医学の病理診断学との関連を病理業務の経験を含めて解説する。</li> <li>・山下 裕美（前期・第 12 回）/剖検、検案時及び生体鑑定における実務経験/法医学分野で行われている剖検・検案時における歯科所見採取や歯科治療痕を用いた個人識別、生体鑑定等、歯科法医学の仕事について解説する。</li> <li>・見立 英史（前期・第 15 回）/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。</li> <li>・齋藤 俊行（後期・第 1 回）/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。</li> <li>・吉田 教明（後期・第 2 回）/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。</li> <li>・久保 至誠（後期・第 3 回）/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。</li> <li>・吉村 篤利（後期・第 4 回）/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。</li> <li>・澤瀬 隆（後期・第 5 回）/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。</li> <li>・村田 比呂司（後期・第 6 回）/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。</li> <li>・朝比奈 泉（後期・第 7 回）/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。</li> <li>・石田 優（後期・第 8 回）/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。</li> <li>・夏目 長門（後期・第 9 回）/ベトナムにおける歯科手術等の診療経験/海外における診療等の活動を紹介する。</li> <li>・角 美佐（後期・第 10 回）/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。</li> <li>・鮎瀬 卓郎（後期・第 11 回）/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。</li> <li>・久松 徳子（後期・第 12 回）/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。</li> <li>・鮎瀬 てるみ（後期・第 13 回）/長崎大学病院における診療実務経験/臨床経験を活かし歯学教育・研究の臨床に係る基礎知識を教授する。</li> <li>・永田 康浩（後期・第 14 回）/医師としての診療実務経験/臨床経験を活かし地域医療に関する基礎知識を教授する。</li> </ul>
-------------------------	--

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	8	月	1	総合科目「歯学展望」について	学部長	第2講義室
2回	4	15	月	1	タバコ学事始め	河野 哲也 (学内非常勤講師)	第2講義室
3回	4	22	月	1	学生ポートフォリオ 概要説明	若菜 啓孝 (学内非常勤講師)	第2講義室
4回	5	13	月	1	生体リズムの生理学 生体リズムを制御する体内時計の神経回路と生理学的意義について概説する。	中村 渉	第2講義室
5回	5	20	月	1	歯周病原細菌の生存戦略 ①タバコと発がん、②歯周病細菌の生存戦略を概説する。	根本 孝幸	第2講義室
6回	5	27	月	1	病気の形態 がんはどのように診断されるか	藤田 修一	第2講義室
7回	6	3	月	1	口腔細菌の意義 口腔常在菌の役割、口腔細菌と疾患	内藤 真理子	第2講義室
8回	6	10	月	1	生体材料と歯科材料 歯科医療に果たす歯科材料の役割	バラネザード 有礼左	第2講義室
9回	6	17	月	1	歯科薬理 薬理学とはどのような学問か	筑波 隆幸	第2講義室
10回	6	24	月	1	解剖学と人類学 人体解剖学と形質人類学	真鍋 義孝	第2講義室
11回	7	1	月	1	「がん」をどのように研究するか 「がん遺伝子」「がん抑制遺伝子」の機能解析について	伊藤 公成	第2講義室
12回	7	8	月	1	歯科法医学の世界	山下 裕美	第2講義室
13回	7	16	火	1	小児の歯科診療 小児と成人の違い、小児歯科とは	藤原 卓	第2講義室
14回	7	22	月	1	骨格形成 骨格形成の分子機構を骨芽細胞と軟骨細胞の分化機構より概説する。	大庭 伸介	第2講義室
15回	7	29	月	1	歯学部生の研究発表・国際交流について APDSA、Student Clinician Research Programを中心に、歯学部生の研究発表および国際交流を紹介する。	見立 英史	講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	月	3	予防歯科と全身の健康 全身の健康につながる歯科保健、う蝕と歯周病の予防	齋藤 俊行	第2講義室
2回	10	7	月	3	矯正歯科の未来 美と機能のトータルなハーモニーを生み出す矯正治療	吉田 教明	第2講義室
3回	10	21	月	3	う蝕治療の変遷と今後の展開 早期発見・早期治療から早期管理へ	久保 至誠	第2講義室
4回	10	28	月	3	歯周疾患と治療 歯周疾患とは？現状と未来	吉村 篤利	第2講義室
5回	11	11	月	3	人工物で作る歯 人工物による歯質・歯牙欠損の修復・回復	澤瀬 隆	第2講義室
6回	11	18	月	3	歯科補綴学と健康長寿 有床義歯の役割	村田 比呂司	第2講義室
7回	11	25	月	3	再生歯科医療 歯科における再生医療の現状と未来	朝比奈 泉	第2講義室
8回	12	2	月	3	骨の「きず」の治り 様々な病気と治療、骨の治療	石田 優	第2講義室
9回	12	9	月	3	海外医療援助～ベトナム・ラオス・モンゴルなど～	夏目 長門 (学外非常勤 講師)	第2講義室
10回	12	16	月	3	頭頸部領域の画像診断	角 美佐	第2講義室
11回	12	23	月	3	歯科医療と全身管理 高齢化社会と全身疾患、歯科治療	鮎瀬 卓郎	第2講義室
12回	1	6	月	3	摂食嚥下リハビリテーション	久松 徳子	第2講義室
13回	1	20	月	3	地域連携医療の中で歯科に求められること	永田 康浩 (学内非常勤 講師)	第2講義室
14回	1	27	月	3	障害者の歯科診療	鮎瀬 てるみ	第2講義室
15回	1	28	火	3	未定	未定	第2講義室

年度 2019 学期 前期	曜日・校時 金・II (またはII～III)	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号	25064408		
科目ナンバリング・コード	DNGD11041098		
授業科目名/(英語名)	コミュニティ教育・実習/(Community education・practice)		
対象年次 3年次	講義形態	講義形式	教室 第1講義室
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鮎瀬卓郎(教務委員長) / ayuse@nagasaki-u.ac.jp/歯科麻酔教授室/819-7713/月～金曜日 午後5時～6時/当日に各担当者へ直接尋ねること。			
担当教員(オムニバス科目等)	非常勤講師(長野真基子、山口和浩、片山健太、片山薫子)		
授業の概要及び位置づけ  本授業が提案するのは現代において分断された仕事と価値意識を「つなぐ」知であり、それによる「全体的視野の獲得」です。他の歯学部授業のなかでは経験できない、みなさんの経験に基づく思考と学びの時間の提供を、意識していきます。			
授業到達目標  一般目標 GIO: コミュニティにおける多様な人々との対話の重要性を理解し、対話に臨みその力量を形成していく構えを身に着ける  個別行動目標 SBOs 1 多様な価値観を持つ人で形成される、コミュニティとは何かを提起する A-4-1-①,② 2 異なる経験を持つ人の生きざまを想起し、その社会的位置にへの新たな認識を獲得する A-4-1-①,② 3 コミュニティのかかわりの中に生きる自己を新たに認識する A-4-1-①,② 4 スキル的に獲得する知にとどまらない、対話と経験から獲得する知を理解する A-4-1-①,② 5 対話への新たな経験と、さらなる対話への構えを獲得する A-4-1-①,② 6 市民としての歯科医師のありようについて考える A-4-1-①,②  【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】			
授業方法(学習指導法)  本講義では、みなさん自身の日々の生活のなかから「暮らしのまなざし」や暮らしをなりたいさせる「関わりまなざし」をほりおこしていくことからスタートします。そのうえで、実社会において困難をかかえる人・困難をかかえる地域とむきあうとくみ、こうした「実践」の底に流れる「もうひとつの知」について提示していきます。授業のなかでは、そうした提示をどう受け止め合うのかをお互いに交し合うための工夫にも、皆さんとの対話を通して、可能なかぎりとりくんでいきます。			
授業内容 第1回目 5月17日 2時限目:オリエンテーション ー社会を感じる・隣人を感じる(担当:長野) 第2回目 5月17日 3時限目:対人援助という仕事 ー山本いま子さんとの縁～虐待支援から見えること(担当:長野) 第3回目 5月24日 2時限目:対人援助とコミュニケーションー聞こえない人々との出会い(担当:長野) 第4回目 5月31日 2時限目:「かっちえて」という場と子どもたち(担当:片山健太、薫子(自然と暮らしの学校「手つなぐ」)) 第5回目 5月31日 3時限目:「手つなぐ」と私たちの働き方(担当:片山健太、薫子) 第6回目 6月7日 2時限目:生と死にむきあう(担当:山口和浩(NPO 法人自死遺族支援ネットワーク Re 代表)) 第7回目 6月14日 2時限目:遊んで、何?(担当:片山健太、薫子) 第8回目 6月14日 3時限目:振り返りとシェア(担当:片山健太、薫子)			
キーワード	実践における「もうひとつの知」		
教科書・教材・参考書	教科書 なし		
成績評価の方法・基準等	出席、レポートで評価する。(レポートの評価は教務委員長が行う。)		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			

<p>実務経験のある教員 による授業科目</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野 真基子(第 1～3 回)／臨床心理士としての実務経験／臨床心理士としての経験を活かし、対人援助やコミュニケーション等について講義する。</li> <li>・片山 健太子(第 4・5・7・8 回)／NPO 法人におけるこども支援活動／支援活動の経験を基に“ひと”との関わり合いについて教授する。</li> <li>・片山 薫子(第 4・5・7・8 回)／NPO 法人におけるこども支援活動／支援活動の経験を基に“ひと”との関わり合いについて教授する。</li> <li>・山口 和浩(第 6 回)／NPO 法人における自殺対策、遺族支援等の活動／NPO 補人での活動経験や体験を基に講義を実施する。</li> </ul>
------------------------------	--

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	17	金	II	オリエンテーションー社会を感じる・隣人を感じる	長野	第1講義室
2回	5	17	金	III	対人援助という仕事ー山本いま子さんとの縁～虐待支援から見えること	長野	第1講義室
3回	5	24	金	II	対人援助とコミュニケーションー聞こえない人々との出会い	長野	第1講義室
4回	5	31	金	II	「かっちえて」という場と子どもたち	片山(健) 片山(薫)	第1講義室
5回	5	31	金	III	「手つなぐ」と私たちの新たな働き方	片山(健) 片山(薫)	第1講義室
6回	6	7	金	II	生と死に向き合う	山口	第1講義室
7回	6	14	金	II	遊びって、何？	片山(健) 片山(薫)	第1講義室
8回	6	14	金	III	振り返りとシェア	片山(健) 片山(薫)	第1講義室

年度 2019 学期 1・2Q	曜日・校時 木・Ⅱ－Ⅴ(時間割を参照)	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25064409		
科目ナンバリング・コード	DNGD11051941		
授業科目名/(英語名)	歯科東洋医学/(Oriental Dental Medicine)		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)		科目分類 総合科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角 忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時 ※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバス科目等)	前川靖裕(非常勤講師)、亀山敦史(非常勤講師)、坂井詠子、戸田一雄(非常勤講師)、池田裕明(腫瘍医学)、田頭澄人(非常勤講師)、筑波隆幸、多田浩晃、金子篤(非常勤講師)		
授業の概要 東洋医学では、人は大自然(大宇宙)のなかの一つで、自然界のすべてのものと、お互いに関連し、影響しあっているとみなしている。西洋医学では、組織、器官はそれぞれ独立して異なるものとするが、東洋医学では、異なった機能を持ちながらも全体として有機的につながりをもった共有体とされている。その根底となる思想が陰陽論と五行論である。このような東洋医学の理論的背景を認識しつつ実際の東洋医学的治療法の主な方法を、座学および体験を通して学習する。			
授業到達目標 一般目標 GIO: 患者満足度の高い良質な歯科医療を提供するために、東洋医学の概念を西洋医学に対比して理解し、統合医療を実践するために必要な基本的知識、および態度を修得する。 個別行動目標 SBOs: 1. 東洋医学体系の基礎理論と診断法を説明できる。 2. 各種東洋医学的治療法(鍼灸・漢方)のメカニズムを説明できる。 3. エイジングや免疫に及ぼす東洋医学的治療法の役割を説明できる。 4. 経絡および歯科領域で重要な経穴の部位を列挙し、説明できる。 5. 漢方の歴史的背景に関心を持つ。 6. 各種代替医療を列挙し、その概要を説明できる。			
授業方法(学習指導法) 輪講形式。スライド、ビデオ等を用いて講義する。必要に応じて実地学習を取り入れる。プリント等は必要な時に配布する。アクティブラーニングにおいては、グループ学習の地、発表討論を行う。			
授業内容 1回目 統合医療学総論 2回目 統合医療学各論 3回目 日本人は何故冷え性になったのか? 4回目 補完代替医学 5回目 漢方薬理 6回目 耳鍼法、アロマセラピー 7回目 鍼鎮痛のメカニズム、歯科鍼灸 8回目 がん免疫治療の最前線 9回目 鍼灸の実際 10回目 抗加齢科学 11回目 先人から学ぶ漢方の知恵(アクティブラーニング) 12回目 先人から学ぶ漢方の知恵(アクティブラーニング) 13回目 先人から学ぶ漢方の知恵(発表) 14回目 試験 15回目 漢方最前線			
キーワード	東洋医学、統合医療、伝統医学、代替医学、鍼、灸、漢方、食養、アロマセラピー、EBM		
教科書・教材・参考書	参考書: 歯科漢方医学、歯科漢方医学教育協議会監修、永末書店 続今日からあなたも口腔漢方医、王宝禮・王龍三編、医歯薬出版 入門歯科東洋医学(第2版)、日本歯科東洋医学会編		
成績評価の方法・基準等	出席率、講義内の小テスト、アクティブラーニングへの参加態度、および筆記試験またはレポートにより総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	東洋医学関係の一般書に目を通しておくことが望ましい。学外講師による講義は日頃接することのできない貴重な機会であり、礼を失することが無いように心がけること。		

<p>実務経験のある教員による授業科目</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・角 忠輝(第 1・2・13・14 回)/大学病院における歯科診療行為自らの診療経験を元に、統合医療の概念について講義およびアクティブラーニング形式の授業を行っている</li> <li>・前川 靖裕(第 3 回)/診療所における診療行為/自らの診療経験を元に、漢方の概念について講義形式の授業を行っている</li> <li>・亀山 敦史(第 4 回)/大学病院における歯科診療行為/大学病院における診療行為を元に統合医療の概念と実際について講義形式の授業を行っている</li> <li>・池田 裕明(第 8 回)/大学病院等における診療行為/自らの診療経験を元に、がん免疫治療についての講義を行っている。</li> <li>・田頭 澄人(第 9 回)/歯科診療所における歯科診療行為/鍼灸師の資格を持つ当該教員が、鍼灸理論・実際の歯科医療への応用について実習形式で授業を行っている。</li> <li>・多田 浩晃(第 11・12・13 回)/大学病院等における診療行為/大学病院における歯科診療行為自らの診療経験を元に、統合医療の概念について講義およびアクティブラーニング形式の授業を行っている</li> <li>・金子 篤(第 15 回)/研究職/製薬会社での研究職の経験を活かし、漢方薬理の基本について講義形式の授業を行っている。</li> </ul>
-------------------------	--

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	9	木	III	統合医療学総論	角	第1講義室
2回	5	15	水	IV	統合医療学各論	角	講義室6A
3回	5	15	水	V	日本人は何故冷え性になったのか？	前川	講義室6A
4回	5	23	木	III	補完代替医学	亀山	第1講義室
5回	5	30	木	IV	漢方薬理	坂井	第1講義室
6回	6	6	木	II	耳鍼法、アロマセラピー	戸田	第1講義室
7回	6	6	木	III	鍼鎮痛のメカニズム、歯科鍼灸	戸田	第1講義室
8回	6	13	木	II	がん免疫治療の最前線	池田	第1講義室
9回	6	13	木	III	鍼灸の実際	田頭	第1講義室
10回	6	20	木	III	抗加齢科学	筑波	第1講義室
11回	6	20	木	IV	先人から学ぶ漢方の知恵(アクティブラーニング)	多田	第1講義室
12回	6	20	木	V	先人から学ぶ漢方の知恵(アクティブラーニング)	多田	第1講義室
13回	6	27	木	II	先人から学ぶ漢方の知恵(発表)	多田	第1講義室
14回	6	27	木	III	試験	角	第1講義室
15回	7	4	木	II	漢方最前線	金子	第1講義室

年度 2019 学期 1・2Q	曜日・校時 木・Ⅲ ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25064417		
科目ナンバリング・コード	DNGD11031098		
授業科目名/(英語名)	Scientific and Practical English		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/授業後に当日の担当者に質問すること。			
担当教員(オムニバス科目等)	David Atwood (非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ  本科目で学ぶのは、英語のリテラシーである。専門知識を学習するうえで不可欠な基礎的語学力を自己点検する。その上で、基本的な英語のリテラシーを学ぶ。			
授業到達目標  一般目標 GIO: 国際化に対応した歯科医師養成を目指す。 <p style="text-align: right;">【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】</p> 個別行動目標 SBOs: 基本的な英語の知識・技能を習得し、国際コミュニケーション 該当なし ヨン英語能力を身に付ける			
授業方法(学習指導法)  3年次に再受験が必須の TOEIC 試験について、試験内容の概要説明や試験対策(Listening and Reading)を行う。			
授業内容  1 回目 TOEIC試験内容の概要 2 回目 TOEIC対策① 3 回目 TOEIC対策② 4 回目 TOEIC対策③ 5 回目 TOEIC対策④ 6 回目 TOEIC対策⑤ 7 回目 TOEIC対策⑥ 8 回目 TOEIC対策⑦ 9 回目 TOEIC対策⑧ 10 回目 TOEIC対策⑨ 11 回目 TOEIC対策⑩ 12 回目 TOEIC対策⑪ 13 回目 TOEIC対策⑫ 14 回目 TOEIC対策⑬ 15 回目 TOEIC対策⑭(アンケートなど)			
キーワード	実践英語		
教科書・教材・参考書	TOEIC 新公式問題集3, 4, 5, 6		
成績評価の方法・基準等	TOIEC本試験にて評価する。		
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席を受験資格とする。		
備考(学生へのメッセージ)	TOEIC 対策は Web Class と併用したハイブリッド型クラスとする。各自課題など期限までに On-line で提出を済ませること。		
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	木	Ⅲ	TOEIC 練習問題	David Atwood	第1講義室
2回	4	11	木	Ⅲ	TOEIC 練習問題	David Atwood	第1講義室
3回	4	18	木	Ⅲ	TOEIC 練習問題	David Atwood	第1講義室
4回	4	25	木	Ⅲ	TOEIC 練習問題	David Atwood	第1講義室
5回	4	25	木	Ⅳ	TOEIC 練習問題	David Atwood	第1講義室
6回	5	9	木	Ⅳ	TOEIC 練習問題	David Atwood	第1講義室
7回	5	23	木	Ⅳ	TOEIC 練習問題	David Atwood	第1講義室
8回	5	30	木	Ⅲ	TOEIC 練習問題	David Atwood	第1講義室
9回	6	6	木	Ⅳ	TOEIC 練習問題	David Atwood	第1講義室
10回	6	13	木	Ⅳ	TOEIC 練習問題	David Atwood	第1講義室
11回	7	4	木	Ⅲ	TOEIC 練習問題	David Atwood	第1講義室
12回	7	4	木	Ⅳ	TOEIC 練習問題	David Atwood	第1講義室
13回	7	11	木	Ⅲ	TOEIC 練習問題	David Atwood	第1講義室
14回	7	11	木	Ⅳ	TOEIC 練習問題	David Atwood	第1講義室
15回	7	18	木	Ⅲ	TOEIC 練習問題	David Atwood	第1講義室

年度 2019 学期 2Q	曜日・校時 1 年次/火・1~2	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064418 DNGD11071098 歯科医師のコンピテンシー I /(Competence for Dentist I)		
対象年次 1 年次	講義形態 講義形式	教室 第 2 講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤原 卓/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学分野教授室/095-819-7672(内7672)/当日に各担当者へ直接尋ねること。			
担当教員(オムニバ ス科目等)	角 忠輝, 藤原 卓, 平田創一郎(東京歯科大学)		
授業の概要 歯科医師として求められる基本的な資質と能力を身につけるために、各学年においてスパイラル形式で講義、実習を積み重ねて行く。			
一般目標 GIO: 1 医療、歯科医療及び医学・歯学研究における倫理を遵守するために、その重要性を理解し、医療倫理・研究倫理に関する知識と態度を身に付ける。 2 豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守る歯科医師としての義務と責任を自覚する。 3 発展し続ける歯科医学の中で必要な知識を身に付け、根拠に基づいた医療(evidence-based medicine <EBM>)を基盤に、経験も踏まえながら、幅広い症候・病態・疾患に対応する。 個別行動目標 SBOs: 右記のコアカリキュラム参照	【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 A-1-1) 医の倫理と生命倫理 1 医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。 2 医の倫理に関する規範・国際規範(ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等を概説できる。 3 臨床(生と死に関わる問題を含む)に関する倫理的問題を説明できる。 A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権 1 歯科医師のプロフェッショナリズムを説明できる。 2 患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。 3 医療サービスの特殊性(情報の非対称性・医療の不確実性)や治療の限界を説明できる 4 歯科医師に課せられた社会的責任と法的責任(刑事責任、民事責任、行政処分)を説明できる。 5 患者に最も適した歯科医療を勧めるとともに、代替する他の方法についても説明できる。 A-2-2) 学修の在り方 1 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。 2 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。 3 実験・実習の内容を決められた様式にしたがって文書と口頭で発表できる。		
授業方法(学習指導法) 講義, グループ討議, 実習(見学)など			
授業内容 1. コンピテンシーとは、歯科医学教育とは 2. 学修のあり方 入門 (基本的態度, 実習心得など) 3. アンプロフェッショナルとは、Profession とは 4. 歯科医師としての責務と裁量 (プロフェッショナリズム) 5. 医と生命倫理			
キーワード	倫理, プロフェッショナリズム, 歯科医師		
教科書・教材・参考書			
成績評価の方法・基準等	レポート, ポートフォリオ等を中心に, 必要に応じて筆記試験も行う		
受講要件(履修条件)	自身の健康管理も歯科医師として必須事項である。したがって、学生健康診断未受験の学生には単位を与えない		
備考(学生へのメッセージ)	時間割が変則になっているので, 注意すること。		
実務経験のある教員による授業科目	・藤原 卓 (第 1・2・3・8 回) /長崎大学病院における医療安全管理, 院内感染対策/療安全, 感染対策に関する講義 ・角 忠輝 (第 4・5 回) /長崎大学病院における歯科臨床/医療倫理についての講義 ・平田 創一郎 (第 6・7 回) /元厚生労働省医政局歯科保健課歯科医師臨床研修専門官、総務課医療安全推進室・経済課併任/厚生労働省での勤務経験を元に医療行政の仕組みについて講義形式の授業を行っている。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	18	火	1	コンピテンシーとは, 歯科医学教育とは	藤原	第2講義室
2回	6	18	火	2	学修のあり方 入門 (基本的態度, 実習心得など)	藤原	第2講義室
3回	6	18	火	3	アンプロフェッショナルとは, Professionとは	藤原	第2講義室
4回	6	25	火	1	歯科医師としての責務と裁量 (プロフェッショナリズム)	角	第2講義室
5回	6	25	火	2	歯科医師としての責務と裁量 (プロフェッショナリズム)	角	第2講義室
6回	7	2	火	1	医と生命倫理	平田	第2講義室
7回	7	2	火	2	医と生命倫理	平田	第2講義室
8回	7	9	火	1	まとめ	藤原	第2講義室

年度 2019 学期 1Q	曜日・校時 2 年次/木・ I, II	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064419 DNGD11081098 歯科医師のコンピテンシー II / ( Competence for Dentist II)		
対象年次 2 年次	講義形態 講義形式	教室 第 2 講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤原 卓/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学分野教授室/095-819-7672(内 7672)/当日に各担当者へ直接尋ねること。			
担当教員(オムニバ ス科目等)	藤原 卓		
授業の概要 歯科医師として求められる基本的な資質と能力を身につけるために、各学年においてスパイラル形式で授業を積み重ねる			
一般目標 GIO: 1 患者の安全を最優先し、常に患者中心の立場に立つとともに、患者の主体的治療参加を促すために、患者の権利を熟知し、その現状と問題点を理解する。 2 豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守る歯科医師としての義務と責任を自覚する。 3 信頼される安全・安心な歯科医療を提供するために、医療上の事故等(インシデントや医療関連感染を含む)は日常的に起こる可能性があることを認識し、過去の事例に学び、事故を防止し、患者の安全確保を最優先するために必要な知識を身に付ける。  個別行動目標 SBOs: 右記コアカリキュラム参照		【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 A-1-2) 患者中心の視点 1 患者の権利を説明できる。 2 患者の自己決定権を説明できる。 3 患者が自己決定ができない場合の対応を説明できる。 4 インフォームド・コンセントの意義と重要性を説明できる。 A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権 2 患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。 3 医療サービスの特殊性(情報の非対称性・医療の不確実性)や治療の限界を説明できる。 4 歯科医師に課せられた社会的責任と法的責任(刑事責任、民事責任、行政処分)を説明できる。 A-6-1) 安全性の確保 1 医療上の事故等の発生要因(ヒューマンエラー、システムエラー等)を説明できる。 2 医療上の事故等に対する防止策を説明できる。 3 医療現場における報告・連絡・相談および診療録記載の重要性について説明できる。 4 医療の安全性に関する情報の共有、分析の重要性を説明できる。 5 医療機関に求められる医療安全管理体制を概説できる。 7 歯科医療における事故の具体例を列挙できる。	
授業方法(学習指導法) 講義, グループ討議, 実習(見学)など			
医療安全概論, 課題提示  WHO Multi-professional Patient Safety Curriculum Guide Topic1 What is Patient Safety? Topic2 Why applying human factors ins important for patient safety Topic3 Systems and the effect of complexity on patient care Topic4 Being an effective team player Topic5 Learning from errors to prevent harm			
キーワード	インフォームド・コンセント, 医療安全, 医療事故		
教科書・教材・参考書	WHO Multi-professional Patient Safety Curriculum Guide <a href="http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/44641/3/9789241501958_jpn.pdf?ua=1://&amp;ua=1">http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/44641/3/9789241501958_jpn.pdf?ua=1://&amp;ua=1</a>		
成績評価の方法・基準等	課題の提出, レポート, ポートフォリオ等を中心に、必要に応じて筆記試験も行う		
受講要件(履修条件)	自身の健康管理も歯科医師として必須事項である。したがって、学生健康診断未受験の学生には単位を与えない		
備考(学生へのメッセージ)			
実務経験のある教員による授業科目	藤原 卓/長崎大学病院における医療安全管理, 院内感染対策/医療安全, 感染対策に関する講義		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	18	木	I	医療安全概論, 課題提示	藤原	第2講義室
2回	4	18	木	II	Topic1 What is Patient Safety?	藤原	第2講義室
3回	4	25	木	I	自習(課題作業)	藤原	第2講義室
4回	4	25	木	II		藤原	第2講義室
5回	5	9	木	I	課題発表 Topic2 Why applying human factors ins important for patient safety	藤原	第2講義室
6回	5	9	木	II	課題発表 Topic3 Systems and the effect of complexity on patient care	藤原	第2講義室
7回	5	16	木	I	課題発表 Topic4 Being an effective team player	藤原	第2講義室
8回	5	16	木	II	課題発表 Topic5 Learning from errors to prevent harm	藤原	第2講義室

年度 2019 学期 1Q	曜日・校時 水・I	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号	25064420		
科目ナンバリング・コード	DNGD11091098		
授業科目名/(英語名)	歯科医師のコンピテンシーⅢ/( Competence for Dentist III )		
対象年次 3年次	講義形態 講義形式	教室	講義室 6A
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤原 卓/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学分野教授室/095-819-7672(内7672)/当日に各担当者へ直接尋ねること。			
担当教員(オムニバ ス科目等)	未定		
授業の概要 歯科医師として求められる基本的な資質と能力を身につけるために、各学年においてスパイラル形式で授業を積み重ねる			
<p>一般目標 GIO:</p> <p>1 科学や社会の中で歯科医学・医療だけでなく様々な情報を客観的・批判的に取捨選択して統合 整理し、表現する基本的能力(知識、技能、態度・習慣)・リベラルアーツを身に付ける。</p> <p>2 患者および医療者にとって、良質で安全な医療を提供する事、とくに院内感染対策について理解する</p> <p>個別行動目標 SBOs: 右記参照</p> <p>【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】</p> <p>A-2-2) 学修の在り方</p> <p>1 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。</p> <p>2 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。</p> <p>3 実験・実習の内容を決められた様式にしたがって文書と口頭で発表できる。</p> <p>A-6-1) 安全性の確保</p> <p>6 医療関連感染の原因と対策を概説できる</p> <p>7 薬剤耐性に配慮した適切な抗菌薬使用ができる (ARM, AMS)。</p> <p>8 歯科医療における事故の具体例を列挙できる。</p> <p>A-6-3) 医療従事者の健康と安全</p> <p>1 医療従事者の健康管理(予防接種を含む)の重要性を説明できる</p> <p>2 標準予防策を説明できる。</p> <p>3 感染経路別予防策を説明できる。</p> <p>4 針刺し事故等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。</p> <p>A-8-1) 医学研究への志向の涵養(研究マインドの涵養)</p> <p>1 生命科学の講義・実習で得た知識を、診療で経験した病態の解析に応用できる。</p> <p>2 臨床上の疑問(Clinical Question &lt;CQ&gt;)を定式化できる。</p> <p>3 患者や疾患を分析するために、教科書・論文などから最新の情報を検索・整理統合することができる。</p>			
授業方法(学習指導法) 講義, グループ討議, 実習(見学)など			
<p>1. 科学論文について,</p> <p>2. 院内感染対策 1 医療関連感染とは, 感染経路, 滅菌と消毒</p> <p>3. 院内感染対策 2 エビデンスに基づく院内感染対策, 標準予防策</p> <p>4. 院内感染対策 3 院内感染で問題となる微生物, 耐性菌問題(AMR)</p> <p>5. 院内感染対策 4 職業感染予防策</p> <p>6. 課題発表</p> <p>WHO Multi-professional Patient Safety Curriculum Guide Topic9 Infection prevention and control</p>			
キーワード	学術論文, EMB, 院内感染, スタンダードプレコーション, AMR		
教科書・教材・参考書	病院感染対策ガイドライン(じほう), 院内感染対策実践マニュアル(永末書店) WHO Multi-professional Patient Safety Curriculum Guide <a href="http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/44641/3/9789241501958_jpn.pdf?ua=1://&amp;ua=1">http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/44641/3/9789241501958_jpn.pdf?ua=1://&amp;ua=1</a>		
成績評価の方法・基準等	出席, レポート, ポートフォリオ等を中心に, 必要に応じて筆記試験も行う		
受講要件(履修条件)	自身の健康管理も歯科医師として必須事項である。したがって, 学生健康診断未受験の学生には単位を与えない		
備考(学生へのメッセージ)			
実務経験のある教員による授業科目	藤原 卓/長崎大学病院における医療安全管理, 院内感染対策/医療安全, 感染対策に関する講義		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	10	水	I	科学論文について, 課題提示	藤原	講義室6A
2回	4	17	水	I	自習(課題作業)		講義室6A
3回	4	24	水	I	院内感染対策1	藤原	講義室6A
4回	5	8	水	I	院内感染対策2	藤原	講義室6A
5回	5	15	水	I	院内感染対策3	藤原	講義室6A
6回	5	22	水	I	院内感染対策4	藤原	講義室6A
7回	5	29	水	I	課題発表 Topic9 Infection prevention and control	藤原	講義室6A
8回	6	5	水	I	まとめ	藤原	講義室6A

年度 2019 学期 2Q	曜日・校時 4 年次/木・I	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064421 DNGD11101098 歯科医師のコンピテンシーⅣ/( Competence for Dentist Ⅳ)		
対象年次 4 年次	講義形態 講義形式	教室	講義室 6A
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤原 卓/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学分野教授室/095-819-7672(内7672)/当日に各担当者へ直接尋ねること。			
担当教員(オムニバ ス科目等)	住田吉慶 (硬組織疾患基盤研究センター)		
授業の概要 歯科医師として求められる基本的な資質と能力を身につけるために、各学年においてスパイラル形式で授業を積み重ねる			
授業到達目標 一般目標 GIO: 医療、歯科医療および医学・歯学研究における倫理を遵守するために、その重要性を理解し、医療倫理に関する知識を身につける。(研究倫理を中心に)  個別行動目標 SBOs: 1 医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。 2 医の倫理に関する規範・国際規範(ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等)を概説できる。 3 臨床(生と死に関わる問題を含む)に関する倫理的問題を説明できる。 4 医学研究に関する倫理的問題を説明できる。 5 情報倫理に関わる問題を説明できる。 6 研究を、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行うよう配慮できる。			
【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 A-1-1)、G-5-① A-1-1) A-1-1) A-8-1) A-9-1) A-8-1)、A-9-1)			
授業方法(学習指導法) 講義, グループ討議, 実習(見学)など			
授業内容  1 回目:医療倫理Ⅰ(医の倫理・生命倫理総論) 臨床研究Ⅰ(臨床研究総論) 2 回目:臨床研究Ⅱ(研究倫理総論) 3 回目:臨床研究Ⅲ(臨床研究の実際) 4 回目:臨床研究実習Ⅰ(論文査読から企画までの流れ) 5 回目:臨床研究実習Ⅱ(プロトコル作成の実際) 6 回目:臨床研究実習Ⅲ(説明同意書作成と被験者への説明の実際) 7 回目:まとめ			
キーワード	研究倫理, 情報倫理		
教科書・教材・参考書			
成績評価の方法・基準等	レポート, ポートフォリオ等を中心に, 必要に応じて筆記試験も行う		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			
実務経験のある教員による授業科目	住田 吉慶/大学病院における診療経験、歯科医学研究の実務/研究倫理についての講義		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	6	6	木	I	医療倫理 I (医の倫理・生命倫理総論) <ul style="list-style-type: none"> <li>・医と生命の倫理の原則を概説できる。</li> <li>・患者の権利、国際的な医療倫理に関する宣言を説明できる。</li> <li>・歯科医師の責務を説明できる。</li> </ul> 臨床研究 I (臨床研究総論) <ul style="list-style-type: none"> <li>・医学の発展と臨床研究の関連性について説明できる。</li> <li>・臨床研究倫理に関する歴史上の重要事項を概説できる。</li> </ul>	住田	講義室6A
2回	6	13	木	I	臨床研究 II (研究倫理総論) <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に関する歴史上の重要事項から生じてきた倫理的な諸問題を解決するための研究倫理・生命倫理について説明できる。</li> <li>・ヒト医学研究の倫理指針について説明できる。</li> </ul>	住田	講義室6A
3回	6	20	木	I	臨床研究 III (臨床研究の実際) <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎研究、臨床研究、臨床試験、治験を説明できる。</li> <li>・医薬品・医療機器開発の流れが説明できる。</li> <li>・研究デザインを概説できる。</li> </ul>	住田	講義室6A
4回	6	27	木	I	臨床研究実習 I (論文査読から企画までの流れ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床論文の読み方を理解する(デザイン・解析項目・手法など)。</li> <li>・臨床研究のアイデアから企画までの流れを説明できる。</li> </ul>	住田	講義室6A
5回	7	4	木	I	臨床研究実習 II (プロトコル作成の実際) <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究プロトコルの作成を体験する。</li> <li>・研究計画書に記載すべき事項に関する細則、対象、検討項目の設定などが説明できる</li> </ul>	住田	講義室6A
6回	7	11	木	I	臨床研究実習 III (説明同意書作成と被験者への説明の実際) <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究対象者への説明同意文書作成を体験する。</li> <li>・被験者への説明項目が説明できる。</li> </ul>	住田	講義室6A
7回	7	18	木	I	まとめ	住田	講義室6A

年度 2019 学期 3Q	曜日・校時 5年次/火・V	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064422 DNGD11111098 歯科医師のコンピテンシーV/( Competence for Dentist V)		
対象年次 5年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 6A	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスマワー 藤原 卓/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学分野教授室/095-819-7672(内7672)/当日に各担当者へ直接尋ねること。			
担当教員(オムニバ ス科目等)			
授業の概要 歯科医師として求められる基本的な資質と能力を身につけるために、各学年においてスパイラル形式で授業を積み重ねる			
授業到達目標		【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】	
一般目標 GIO: 医療人として求められる社会的役割を担い、地域社会と国際社会に貢献する。			
個別行動目標 SBOs: 下記参照		下記参照	
授業方法(学習指導法) 講義, グループ討議, 実習(見学)など			
A-4-2) 患者と歯科医師の関係 1 患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。 2 患者に分かりやすい言葉で対話できる。 3 患者の心理的・社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。 4 医療行為は患者と歯科医師との高度な信頼関係を基礎とする契約に基づいていることを説明で 35 できる。 5 患者の要望(診察・転医・紹介)への対処の仕方を説明できる。 6 患者のプライバシーに配慮できる。 7 患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 A-7-1) 地域医療への貢献 1 地域社会(へき地・離島を含む)における歯科医療の現状について概説できる。 2 医療計画(医療圏、基準病床数、地域医療支援病院、病院・診療所・薬局の連携等)および地域医療構想について説明できる。 3 地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における、保健(地域保健、母子保健、成人・高齢者保健、精神保健、学校保健)・医療・福祉・介護の分野間および多職種間(行政を含む)の連携の必要性について説明できる。 4 地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を身に付ける。 5 地域における、訪問歯科診療、救急医療および離島・へき地医療の体制を説明できる。 6 災害医療(災害時保健医療、医療救護班、災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team <DMAT>)、災害拠点病院、トリアージ等)について説明できる。 A-7-2) 国際医療への貢献 1 患者の文化的背景を尊重し、異なる言語に対応することができる。 2 地域医療の中での国際化を把握し、価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮することができる。 3 保健、医療に関する国際的課題について理解し、説明できる。 4 日本の医療の特徴を理解し、国際社会への貢献の意義を理解している。 5 医療に関わる国際協力の重要性を理解し、仕組みについて説明できる。			
キーワード	離島医療, 地域包括ケア, 災害医療, 臨床研究, EBM		
教科書・教材・参考書			
成績評価の方法・基準等	レポート, ポートフォリオ等を中心に, 必要に応じて筆記試験も行う		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)			
実務経験のある教員による授業科目	・未定/現役歯科医師が歯科医院における実務経験/歯科医院における診療経験を元に地域医療に関する講義を実施する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	1	火	V	地域歯科医療概説①	未定	講義室6A
2回	10	8	火	V	地域歯科医療概説①	未定	講義室6A
3回	10	15	火	V	地域歯科医療概説①	未定	講義室6A
4回	10	29	火	V	地域歯科医療概説②（長崎県歯科医師会）	未定	講義室6A
5回	11	5	火	V	地域歯科医療概説②（長崎県歯科医師会）	未定	講義室6A
6回	11	12	火	V	地域歯科医療概説②（長崎県歯科医師会）	未定	講義室6A
7回	11	19	火	V	地域歯科医療概説②（長崎県歯科医師会）	未定	講義室6A
8回	11	26	火	V	自習		

年度 2019 学期 4Q	曜日・校時 月 5～6	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25064423		
科目ナンバリング・コード	DNGD11121052		
授業科目名/(英語名)	歯科学のための化学/(Chemistry for Dental Sciences)		
対象年次 1年次	講義形態 講義形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 筑波 隆幸/tsuta@nagasaki-u.ac.jp			
担当教員(オムニバ ス科目等)	根本 孝幸、伊藤 公成、内藤 真理子		
<b>授業の概要</b> 歯学生として人体を治療するための化学的な基礎知識を習得する。そのために高校で習得すべき化学的基礎知識および歯学部での生化学、微生物学、薬理学の基礎的な化学的知識を身に付ける。			
<b>授業到達目標</b> 1) 生命科学の基本的概念が説明できる。2) 無機化学の基本的概念が説明できる。3) 有機化合物の基本的概念が説明できる 一般目標 GIO: 高校で習得すべき化学的基礎知識および歯学部での生化学、微生物学、薬理学の基礎的な化学的知識を身に付ける。			
<b>【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラ】</b>			
<b>個別行動目標 SBOs:</b> 1) 化学反応と酸・塩基の基本原理を説明する C-1-1) ①～② 2) 有機化合物の性質と機能を説明する C-1-1) ②～③ 3) 生体内高分子(脂質、糖質、タンパク質、核酸)の性質を説明する C-2-1) ①～⑤, C-2-2) ①～⑤			
<b>授業方法(学習指導法)</b> 教科書、液晶プロジェクターおよび板書を中心とした講義を行なう。必要に応じてプリントを配布して、情報の追加を行う。			
<b>授業内容</b> 1 回目・原子の構造と性質 2 回目 化学結合と混成軌道 3 回目 結合のイオン性と分子間力 4 回目 配位結合と有機金属化合物 5 回目 溶液の化学 6 回目 酸・塩基と酸化・還元 7 回目 反応速度と自由エネルギー 8 回目 有機化合物の構造と種類 9 回目 有機化合物の異性体 10 回目 有機化学反応 11 回目 脂質一生体をつくる分子1 12 回目 糖質一生体をつくる分子2 13 回目 アミノ酸とタンパク質一生体をつくる分子3 14 回目 核酸一生体をつくる分子4 15 回目 環境と化学			
キーワード	化学		
教科書・教材・参考書	メディカル化学―医歯薬系のための基礎化学 齋藤 勝裕/太田 好次/山倉 文幸/八代 耕児/馬場 猛【共著】裳華房		
成績評価の方法・基準等	定期試験で、筆記試験を行ない、60点以上得点すれば合格である。再試験は1回行う。本試験の満点は100点、再試験以降の満点は60点とする。		
受講要件(履修条件)	講義は2/3以上の出席が必要。		
備考(学生へのメッセージ)	授業は原則的にシラバスに沿って行う。		
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。		

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	2	月	6	原子の構造と性質	筑波	第2講義室
2回	12	9	月	5	化学結合と混成軌道	筑波	第2講義室
3回	12	9	月	6	結合のイオン性と分子間力	筑波	第2講義室
4回	12	16	月	5	配位結合と有機金属化合物	筑波	第2講義室
5回	12	16	月	6	溶液の化学	伊藤	第2講義室
6回	12	23	月	5	酸・塩基と酸化・還元	伊藤	第2講義室
7回	12	23	月	6	反応速度と自由エネルギー	内藤	第2講義室
8回	1	6	月	5	有機化合物の構造と種類	内藤	第2講義室
9回	1	6	月	6	有機化合物の異性体	内藤	第2講義室
10回	1	20	月	5	有機化学反応	内藤	第2講義室
11回	1	20	月	6	脂質—生体をつくる分子1	根本	第2講義室
12回	1	27	月	5	糖質—生体をつくる分子2	根本	第2講義室
13回	1	27	月	6	アミノ酸とタンパク質—生体をつくる分子3	根本	第2講義室
14回	1	28	火	5	核酸—生体をつくる分子4	根本	第2講義室
15回	1	28	火	6	環境と化学	伊藤	第2講義室

年度 2019 学期 3Q・4Q	曜日・校時 月 4～5(3Q) 月 4(4Q)	必修選択 必修	単位数 1.5																						
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064424 DNGD11131067 歯科学のための生物科学/Biological Science for Dentistry																								
対象年次 1年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第2講義室																							
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目																								
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤山理恵/rierika@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学/095-819-7760(内 7760)/16:00-17:30																									
担当教員(オムニバス科目等)	講義: 藤山理恵	実習: 藤山理恵																							
<b>授業の概要</b> 超高齢化社会の現在、65歳以上の歯科受診患者は平成26年には40%を超え、特に75歳以上の患者は著明な増加傾向である。そのため、今後は全身的有病者への歯科治療はさらに増加する。歯科医師として全身的病態を理解した上での歯科治療を行うことはもちろん、多科にわたる医師との連携が必要となる。さらに周術期口腔機能管理の必要性、地域包括ケア・栄養サポートシステムへの参加など歯科医師は多様な対応を求められる時代となった。このような歯科臨床の変化に対応するため、歯学部教育の早期に人間の諸器官の構造と機能の基礎を学ぶ本授業は、医学の専門的知識を身に付ける第一歩に位置づけられる。さらに本授業は、歯科医師として今まで以上に重要となる臨床医学における病態の理解を深めるための橋わたしとなる。																									
<b>授業到達目標</b> 一般目標 GIO: 人間のミクロからマクロにいたる諸器官の構造と機能の基礎を学び、ヒトの生命について理解する。 人体の正常構造と機能の基礎的知識を習得し、病態への興味を引き出す。 習得した知識から、病態について自らの力で考えることにより探求・解決能力を身に付ける。【平成28年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】 個別行動目標 SBOs: 1.得られた知識を統合して自分の考えを表現し、病態を分析できる。 A-2-1), A-2-2) 2.筋系の基本構造と機能を説明できる。 C-3-4) 3.神経系の基本構造と機能を説明できる。 C-3-4) 4.感覚器系の基本構造と機能を説明できる。 C-3-4) 5.消化器系の基本構造と機能を説明できる。 C-3-4) 6.呼吸器系の基本構造と機能を説明できる。 C-3-4) 7.内分泌系の基本構造と機能を説明できる。 C-3-4) 8.泌尿器系の基本構造と機能を説明できる。 C-3-4) 9.生殖器系の基本構造と機能を説明できる。 C-3-4) 10.唾液腺および味覚の構造と機能、味覚伝達のメカニズムを説明できる。 E-2-2) 11.味覚障害の原因、診察、検査、診断および治療方針を説明できる。 E-2-4) 12.味覚障害の体験実習などから患者の精神的・身体的苦痛に配慮できる。 A-4-2)																									
<b>授業方法(学習指導法)</b> 教科書、液晶プロジェクターおよび板書を用いて、人体の構造と機能を体系的に学習する。 正常構造と機能を理解する中で、学生自身が疾患を理論的に考えられるようなお題を出題し、グループ単位で発表する。 また各自レポートを提出する。 知識の定着として、動画の活用も行う。 患者に寄り添う歯科医師の第一歩として、感覚疾患(味覚障害)を体験する実習を行う。 知識習得確認のため、各器官ごとおよび最後の授業(まとめ)にて歯科医師国家試験などの問題演習を行う。																									
<b>授業内容</b> <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1回目 歯科学のための生物科学 序論</td> <td style="width:50%;">12回目 神経系</td> </tr> <tr> <td>2回目 人体の成り立ち</td> <td>13回目 泌尿器系の疾患を考える</td> </tr> <tr> <td>3回目 細胞の興奮</td> <td>14回目 自律神経系</td> </tr> <tr> <td>4回目 循環器系 1</td> <td>15回目 神経系の疾患を考える</td> </tr> <tr> <td>5回目 循環器系 2</td> <td>16回目 運動器系</td> </tr> <tr> <td>6回目 血液・免疫系</td> <td>17回目 生殖器系</td> </tr> <tr> <td>7回目 循環器系の疾患を考える</td> <td>18回目 感覚器系 1</td> </tr> <tr> <td>8回目 呼吸器系</td> <td>19回目 感覚器系 2</td> </tr> <tr> <td>9回目 呼吸器系の疾患を考える</td> <td>20回目 感覚器系の疾患を考える</td> </tr> <tr> <td>10回目 消化器系</td> <td>21回目 感覚の実習</td> </tr> <tr> <td>11回目 泌尿器系</td> <td>22回目 まとめ</td> </tr> </table>				1回目 歯科学のための生物科学 序論	12回目 神経系	2回目 人体の成り立ち	13回目 泌尿器系の疾患を考える	3回目 細胞の興奮	14回目 自律神経系	4回目 循環器系 1	15回目 神経系の疾患を考える	5回目 循環器系 2	16回目 運動器系	6回目 血液・免疫系	17回目 生殖器系	7回目 循環器系の疾患を考える	18回目 感覚器系 1	8回目 呼吸器系	19回目 感覚器系 2	9回目 呼吸器系の疾患を考える	20回目 感覚器系の疾患を考える	10回目 消化器系	21回目 感覚の実習	11回目 泌尿器系	22回目 まとめ
1回目 歯科学のための生物科学 序論	12回目 神経系																								
2回目 人体の成り立ち	13回目 泌尿器系の疾患を考える																								
3回目 細胞の興奮	14回目 自律神経系																								
4回目 循環器系 1	15回目 神経系の疾患を考える																								
5回目 循環器系 2	16回目 運動器系																								
6回目 血液・免疫系	17回目 生殖器系																								
7回目 循環器系の疾患を考える	18回目 感覚器系 1																								
8回目 呼吸器系	19回目 感覚器系 2																								
9回目 呼吸器系の疾患を考える	20回目 感覚器系の疾患を考える																								
10回目 消化器系	21回目 感覚の実習																								
11回目 泌尿器系	22回目 まとめ																								

キーワード	人体、循環器、呼吸器、消化器、泌尿器、神経、運動器、生殖器、感覚器
教科書・教材・参考書	教科書:トートラ人体解剖生理学(原著 10 版)、佐原由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之 翻訳 (丸善出版) 参考書:カラー図解 人体の正常構造と機能 全 10 巻縮刷版 第 3 版、坂井建雄・河原克雅 (日本医事新報社)
成績評価の方法・基準等	グループ単位での発表・レポートおよび定期試験中に行う筆記試験の得点により評価する。
受講要件(履修条件)	出席数が講義数の 2/3 に満たないものは定期試験を受けることは出来ません。
備考(学生へのメッセージ)	授業内容の項目を必ず教科書にて予習すること。教科書は必ず持参すること。また毎回講義終了後は教科書あるいは配布資料を復習すること。
実務経験のある教員による授業科目	・藤山 理恵/大学病院での味覚外来担当による診療経験/歯科学で必要な生理学を中心とした知識を習得し、病態への興味を引き出す。その際に味覚外来での診療経験を基にした感覚疾患(味覚障害)の体験実習を実施し、その機能・構造について教授する。

日程表

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	月	4	序論 歯科医師の社会的な役割 歯科医師となるために学ぶべきこと	藤山	第2講義室
2回	9	30	月	5	人体の成り立ち ホメオスタシス	藤山	第2講義室
3回	10	7	月	4	細胞の興奮	藤山	第2講義室
4回	10	7	月	5	循環器系 1	藤山	第2講義室
5回	10	21	月	4	循環器系 2	藤山	第2講義室
6回	10	21	月	5	血液・免疫系	藤山	第2講義室
7回	10	28	月	4	循環器系の疾患を考える 循環器系疾患の関するお題についてグループ単位で発表	藤山	第2講義室
8回	10	28	月	5	呼吸器系	藤山	第2講義室
9回	11	11	月	4	呼吸器系の疾患を考える 呼吸器系疾患の関するお題についてグループ単位で発表	藤山	第2講義室
10回	11	11	月	5	消化器系	藤山	第2講義室
11回	11	18	月	4	泌尿器系	藤山	第2講義室
12回	11	18	月	5	神経系	藤山	第2講義室
13回	11	25	月	4	泌尿器系の疾患を考える 泌尿器系疾患の関するお題についてグループ単位で発表する	藤山	第2講義室
14回	11	25	月	5	自律神経系	藤山	第2講義室
15回	12	2	月	4	神経系の疾患を考える 神経系疾患の関するお題についてグループ単位で発表	藤山	第2講義室
16回	12	2	月	5	運動器系	藤山	第2講義室
17回	12	9	月	4	生殖器系	藤山	第2講義室
18回	12	16	月	4	感覚器系1	藤山	第2講義室
19回	12	23	月	4	感覚器系2	藤山	第2講義室
20回	1	6	月	4	感覚器系の疾患を考える 感覚器系疾患の関するお題についてグループ単位で発表	藤山	第2講義室
21回	1	20	月	4	感覚の実習 味覚障害(甘味喪失)の体験 味覚外来について	藤山	第2講義室
22回	1	27	月	4	まとめ 歯科医師国家試験などの問題演習により習得した知識を確認する。	藤山	第2講義室

